

第 1 学年 音楽科学習指導案

日 時 平成 19 年 10 月 12 日[金]公開授業 2
生 徒 北上市立上野中学校 1 年 C 組
男子 18 名 女子 17 名 計 35 名
場 所 上野中学校 音楽室
指導者 教諭 橋 久美子

1 題材名 混声三部合唱の響き

<教材> 「Let's search for Tomorrow」(堀 徹 作詞 大澤徹訓 作曲)

2 題材について

(1) 題材及び教材観

本題材は、学習指導要領の第 1 学年 A 表現(1)の工「声部の役割を感じ取り、全体の響きに気を付けて合唱や合奏をすること」、キ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること」、ク「速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫すること」を中心に学習を進めるものである。

工「声部の役割を感じ取り、全体の響きに気を付けて合唱や合奏をすること」は、「和声を含む音と音との関わり合い」を踏まえて、自分の声部と他の声部とのかかわり合いや全体の響きを感じながら表現する能力を伸ばすことである。具体的には、声部の特徴と役割を感じ取らせること、他の声部とのかかわりを感じ取らせること、そしてそれによって生まれる全体の響きを感じながら自分の担当する声部を正しく表現する能力を育てることがねらいである。

そのためには、まず自分の声部の役割を知り、役割を生かした効果的な表現をするための創意工夫が求められる。さらに全体の響きを感じて表現するために、自分が表現する音と他声部の音や全体の響きとのかかわりを感じ取らせることが大切である。ここでは、混声合唱の導入として、テノールを歌う男子生徒の音の高さやその響きを聴き合い、その上に混声合唱のハーモニーを築いていくことになる。音楽の流れの中で全体の響きを感じ取り、役割を果たすためにどう表現したらよいかに気づかせ、工夫しながら表現活動に取り組むことを大切にしたいと考える。

今回教材として取りあげた「Let's search for Tomorrow」は、斉唱から混声二部合唱そして混声三部合唱と旋律の重なり方が変化するので、それを感じながら表現させたい。この変化によって、強弱をどのように工夫していけばよいかも感じ取ることができる。また、旋律が和声的に重なり合う曲なので、各声部が全体の響きとしてどのようにかかわっているか感じ取らせたいと考えた。

そのため、次のような手立てを用いた。

ある声部を抜いて表現し、響きの変化を感じ取らせる。

声部を 1 つずつ重ねていき、次第に豊かな響きへと変化していくことを感じ取らせる。

全員で主旋律を歌うことで、響きの違いや声部の役割を感じ取らせる。

これらの活動によって、声部の役割を理解するだけでなく、声部に適した音色の工夫や、少アンサンブルへの活動にもつながりをもたせていきたいと考えている。

(2) 生徒観

この学級は、音楽が好きな生徒は35名中21名で、歌うことより鑑賞を好む生徒が多い。1学期末に混声二部合唱「朝の風に」を導入とし、男子生徒は変声した声をどのように音程を合わせて歌うか試み、十分でないが各声部の特徴を感じ取りながら合唱した。今回は、混声三部合唱に取り組み、この合唱の響きに注目し、各声部の役割と混声の響きを感じ取って表現することを学習したいと思う。パート分けは本人の希望と判断でおこない、変声前の男子は音域が低いがテノールに入っている。全体に自然で無理のない発声で豊かな響きを求めて生き生きと表現を工夫させたいと思う。

(3) 指導観

「個に応じた手立て」について

主に音楽の活動場面での取り組みが中心となるパート練習のほかにペア練習やグループ練習形態などの少人数による学習形態を設定した。その時に個人の発声や音程をチェックするなど、個人指導を取り入れるようにし、個人の意欲や達成状況にあったその活動を評価していけるようにした。また、音楽の諸要素を感じ取るための学習を工夫し、直接教師の支援によるものと生徒同士による相互学習や相互支援によるもので、できるだけ表現意欲につなげたいと考えた。

「評価の生かし方」について

音楽の諸要素を感じ取ることは、「音楽的な感受や表現の工夫」としてみとるようにする。生徒が合唱発表を聴き、音楽の構成要素や表現要素についてどのように感じ取ったかは、この諸要素に関係した内容やイメージしたことがカードに記入されているかどうかや発言で判断したい。また、音楽の活動場面では、旋律の音程が取れることや、自分から表現したことや発言したことに対してはすぐ評価し、達成状況を把握し意欲につなげるように心がけている。

3 題材の目標

- (1) 声部の役割と全体の響きを感じ取り、和声を含む音と音のかかわり合いや強弱による曲想の変化に関心を持ち、意欲的に取り組む。
- (2) 声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音のかかわり合いや強弱による曲想の変化を感じ取り、イメージや考えを持って表現の工夫をする。
- (3) 声部の役割と全体の響きを感じ取り、和声を含む音と音のかかわり合い、強弱による曲想の変化を生かして表現する技能を身につける。

4 題材の指導計画 [3時間]

- 第1時 旋律の構成を知り、各声部の役割や全体の響きを感じ取りペアやパート練習で自分の声部の旋律を歌う。
- 第2時 各声部の役割や全体の響きを感じ取り表現を工夫する。 <本時>
- 第3時 音楽の強弱の働きによる曲想の変化を感じ取りながら表現を工夫する。

5 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
評価規準	声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音とのかかわり合い、強弱による曲想の変化に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音とのかかわり合い、強弱による曲想の変化を感じ取り、イメージや考えを持って表現の工夫をしている。	声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音とのかかわり合い、強弱による曲想の変化を生かして合唱表現している。
活動における具体評価規準	<p>声部の役割と全体の響きに関心を持ち、感じ取りことに意欲的である。</p> <p>和声を含む音と音とのかかわり合いに関心を持ち、表現することに意欲的である。</p> <p>強弱による曲想の変化に関心を持ち表現することに意欲的である。</p>	<p>声部の役割と全体の響きを感じ取りイメージや考えを持ち表現を工夫している。</p> <p>和声を含む音と音とのかかわり合いによる曲想の変化を感じ取り、イメージや考えを持って表現工夫をしている。</p> <p>強弱による曲想の変化を感じ取りイメージや考えを持ち表現工夫をしている。</p>	<p>声部の役割と全体の響きを感じ取り、合唱表現をしている。</p> <p>和声を含む音と音とのかかわり合いによる曲想の変化を生かして合唱表現をしている。</p> <p>強弱により曲想の変化を生かして合唱表現をしている。</p>

6 本時の指導目標

(1) 目標

声部の役割と全体の響きを感じ取り、意欲的に取り組む。

声部の役割と全体の響きを感じ取り、イメージや考えを持って表現を工夫する。

(2) 本時の評価の観点と具体の評価規準

	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
観点1 音楽への関心 意欲・態度	声部の役割と全体の響きについて関心を持ち、役割や響きを感じ取った内容の発言があり、積極的に感じている様子が見える。	声部の役割と全体の響きについて関心を持ち、役割や響きについての発言があり、感じ取っている様子が見える。	声部の役割と全体の響きについての発言を聞き、その内容を感じ取れるように個別に声をかけ支援する。
観点2 音楽的な感受と表現の工夫	各声部の役割や全体の響きを感じ取り表現の工夫をしている。声部の役割や全体の響きの内容についての記述が十分適切である。	各声部の役割や全体の響きを感じ取り表現の工夫をしている。声部や響きについての内容の記述がある。	自分の声部と他声部を聴き比べ、声部の違いや全体の響きの違いを感じ取ることができるよう支援する。発表を聞いて内容を記述させる。

(3) 展開

: 評価 : 手立て

	指導内容	生徒の学習活動	留意事項と評価・手だて
導入 5分	1 呼吸練習・発声練習	・呼吸練習や発声練習をやる。 ・当番生徒に合わせる	
	2 学習課題の把握	声部の役割を感じ取り、混声三部合唱の響きをつくる	
展開 35分	3 「Let's search for Tomorrow」の旋律から主旋律と斉唱と合唱の構成を確認	・前時に学習した旋律の構成について確認する。主旋律と斉唱と合唱の構成を確認する。	・斉唱と合唱の部分を確認し、自分のパート旋律の動きや重なりを理解する。
	4 「Let's search for Tomorrow」の後半の合唱部分について ・グループ練習	・それぞれに分かれ合唱練習をする。 各声部を1つ抜いて歌う 声部を1つずつ重ねて歌う 全員で主旋律の斉唱と合唱を歌う ・声部の役割と全体の響きについて感じ取ったことをカードに記入する。	感受 声部の役割と全体の響きを感じ取ることができる。 <Cの生徒への手立て> 声部の組み合わせで響き方が変わることに着目し聴くよう支援する。 <Bの生徒への手立て> グループ練習から、声部の役割と全体の響きを感じ取ったことやイメージを記入するように指導する。 <Aの生徒への指導> 和音の重なりを感じ響き合う中で歌うことができるよう指導する。
	5 グループごとに合唱発表	グループごとに練習した合唱を発表する。 ・合唱を聴いて感じ取ったことを発表する。	
終末 10分	6 まとめの合唱	声部の役割の全体の響きを感じながら合唱する。	・各声部を聴き合って、全体の響きを感じ取って合唱させる。
	7 自己評価	カードに記入する。	
	8 次時の学習予告	次時の学習内容を知る。	・強弱による表現の工夫することを予告する